

川崎市環境総合研究所 平成26年度 環境技術産学公民連
携公募型共同研究事業

環境情報・写真データを用いた コミュニティ活性化支援に関する共同研究

～川崎タイムマシン～

「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する

(最終報告)

国際大学 グローバル・コミュニケーション・センター

研究の背景①

- 環境保全など地域社会の課題を解くための鍵は、人々の自発的な協調行動を生み出す地域コミュニティのあり方である。
- しかし、少子高齢化、単身世帯化、ライフスタイルの多様化等が進む中、住民相互のコミュニケーションにより協力関係を構築し地域コミュニティを活性化していくことは容易ではない。
- そのため、本来であれば住民同士の協働によって解決できるような地域課題が行政に持ち込まれることが少なくない。これによる行政コスト・社会的コストの増大も懸念される。

研究の背景②

- 戦後の川崎市の発展は、「工業化と公害の街」等、必ずしもプラスイメージでは捉えられていない
- だが、環境総合研究所の活動などマイナスからプラスへ転じるために行われてきた活動は、大都市圏の取り組みとして注目に値する
 - 中国の都市等からの視察受入れ、都市農業への取り組み等
- 環境情報を市民とともに歴史的に振り返りながら地域のコミュニケーションを活性化し地域づくりに活かす取り組みは、従来の川崎市のイメージを変え得るものであり、「**川崎モデル**」として海外や国内他都市への紹介につながる。

研究の目的

「環境」を主な切り口として川崎市の過去と現在を比較し、
地域社会における（環境）コミュニケーション活性化の効果的
な方法やプロセスを確立する。



【本研究が生み出す価値】

川崎市民が世代や立場を越えて地域の環境やその歴史的な変遷について対話することで、環境保全等地域の課題に取り組んでいくための新たな人間関係等、協調行動の元となる社会関係性資本を醸成する。

【研究体制】

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
社会イノベーションラボ（庄司、菊地、中川、武田、小島）

+

株式会社富士通研究所 R & D戦略本部

【研究チームの強み】

- 地域社会・地域情報化・ソーシャルメディア研究の専門性
 - 地域SNS研究会（06年－現在）を主宰、各地の現地訪問調査を実施
 - 『地域SNS最前線』（2007年、アスキー）出版、
総務省情報通信白書（2010年）調査担当・引用、その他の成果
- 多種対連携による実践的プロジェクト多数運営の実績
 - 写真を活用した地域コミュニケーション活性化「ヒストリーピン・富士宮プロジェクト」（2013年、総務省ICT超高齢社会作り事業）
 - 社会課題中心アプローチ×国際的企業連携活動「Futures」ほか
- オープンデータに関する国内外の自治体・組織との関係
 - 公共データの活用に向けた政策形成・提言、普及啓発活動
 - 川崎市「平成25年度政策課題研究：行政情報のオープンデータ化～川崎市における取組のあり方を考える～」を支援
 - オープンデータを用いた都市評価ツール（富士通）

研究活動の大綱

1. 社会的資源の再発見

川崎市における、過去から現在までの環境の推移、環境や自然に関わる人々の取り組み、街の姿の変貌などを表すデータ、写真素材、記憶等を社会的資源として再発見する。

同時に、その収集・選択・分析プロセスを研究する。

その際の手法として、ワークショップ等のコミュニケーション・対話を介在させる。

2. 社会的資源の活用

川崎市の環境と歴史に関わる社会的リソースを素材とし、これまで地域との関わりが薄かった人々との関係構築など、社会関係資本の醸成を通じた地域コミュニティの活性化策を検討する。

本年度の活動成果

・ 川崎市環総研とミニワークショップを開催

- ・ 地図、写真、動画等を活用した対話の可能性や協力すべき関係者の探索を行った。

・ データカタログの作成

- ・ 川崎市のオープンデータ＋各種社会的データの発見・整理

・ 協力関係の構築

- ・ G空間未来デザインプロジェクト（国土交通省）を通じ、川崎市ICT推進課・宮前区役所・宮前区地域住民・東急電鉄などとの関係構築
- ・ 岡上小学校、川崎市社会福祉協議会との関係構築

気になる点

現在・過去の生活の比較に意義
「よくわからない写真」が面白い
「意外とやってることは同じ！」
公害前の漁業・海苔養殖...等

コンテンツ提供者(18分野)

公害研OB、川崎宿副館長、
貨物鉄道線マニア、チネチッタ
工場勤務者、市OB・企業社史...等

コミュニケーション対象者(17分野)

社会福祉協議会、環境NPO、
商店街、写真館、高校地学部...等



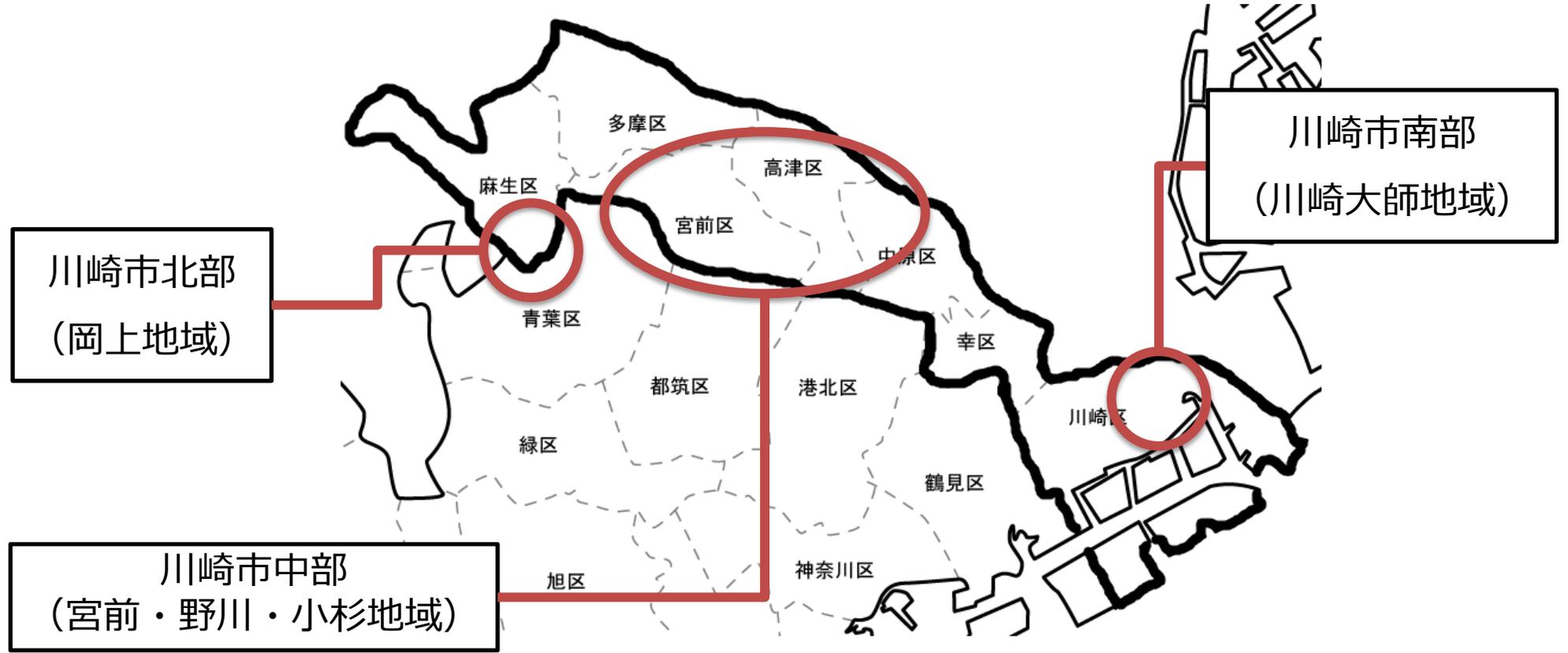
本年度の活動成果

- 川崎市環総研とウォッチソンを開催
 - 市保有の昭和31-35年/昭和46-50年の「市政ニュース」映像4時間分を視聴
 - 過去の映像が川崎市の環境問題と歴史への理解を深め対話を媒介することを確認



本年度の活動成果

各地域で協働の候補となる主体の選定や関係構築を行い、今後中長期的に研究を進める上での基礎づくりを行った



本年度の活動成果

「環境×川崎の過去・現在」を対話するワークショップの実施

- 日時：1月20日（火）13時－17時
- 会場：東海道かわさき宿交流館 4階 集会室
- 主催：国際大学GLOCOM
- 共催：川崎市環境総合研究所
- 概要：
 - 川崎市の過去から現在までの環境データの推移、環境や自然に関わる人々の努力、街の姿の変容等を表す写真や映像をコミュニケーションの媒介物として使用する。
 - 川崎の環境に関する体験を語りながらこれらの地域資源の価値を再発見する。
 - 同時に、世代や立場を超えた対話を通じ、新たなつながりの創出への発展を目指す。
 - 対話の内容も地域資源として記録・活用する



本年度の活動成果

「環境×川崎の過去・現在」を対話するワークショップの実施

【プログラム】

1. チェックイン（10分）：軽い対話で雰囲気をはぐす
2. インスピレーション・トーク（30分）
環総研OB2名、過去の写真の解説
3. 市政ニュース映像の視聴（30分）
テーマ別に編集した過去50年の映像を視聴
4. プロジェクター&スクリーン（30分）
3人1組で話し手、聞き手、記録者を担当
5. 内容のシェア（30分）
ここまでで感じたことを自分の言葉で話す
6. 今後の展開のアイデア創造（20分）
映像・写真等を用いた対話の地域社会や行政内での応用を検討
7. 内容のシェア（10分）

中原図書館所蔵の小串嘉男氏、倉形泰造氏が撮影した写真を借用
各スライドに写真1枚とその撮影年月日、場所、備考を掲載

撮影：小串嘉男氏



- 1956年12月2日
- 川崎区東京製線
(大日本電線)
- (備考)さいか屋屋上
より

撮影：倉形泰造氏



- 昭和15(1940)年
- 水のきれいな扇島
海水浴場

撮影：小串嘉男氏



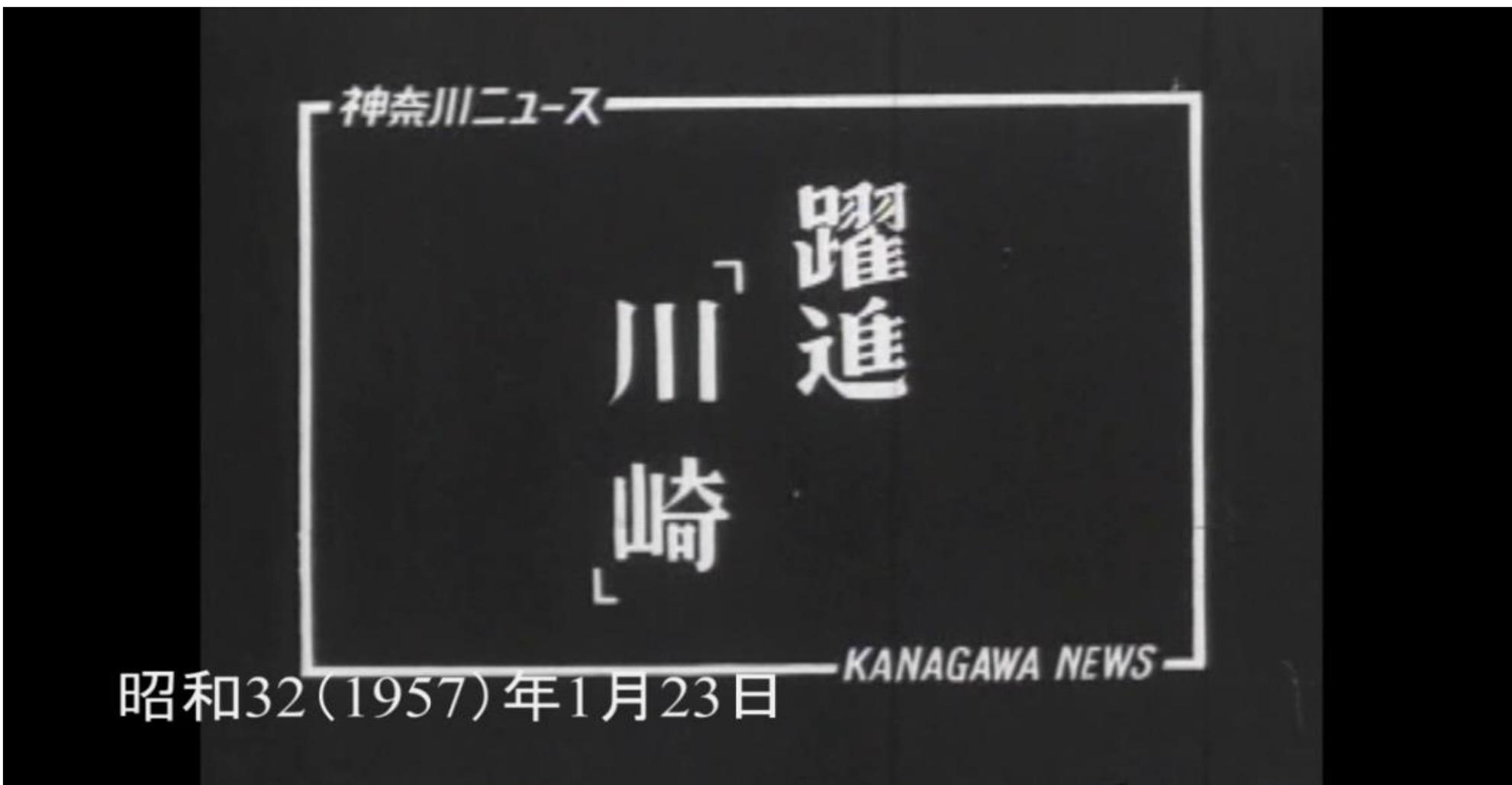
- 1955年1月1日
- 幸区第二京浜国道
- 国道一号線
- (備考)多摩川大橋際・横浜
方向を望む(乗用車)

撮影：小串嘉男氏



- 1950年8月12日
- 幸区古市場土手より
多摩川対岸
- (備考)後方の工場:
(左)日本精工、
(右)三井精機

過去の市政ニュース映像集と公害ドキュメントドラマ映像を編集。
「公害」「川崎市平地・山間部」「川崎市臨海部」の3テーマ・1本
10分前後の映像を作成（各6-7本のニュース映像を使用）



【参加者の発見・感想（一部）】

■ 公害とくらし

- ご近所同士で大量の洗濯物を干している写真があり、その写真の後ろにはご近所の女性らしき人がしゃべっている。今では近所中の洗濯物を一緒に干すようなことはしないが、当時はみんなが集まり暮らすような、共同の場所が街にあった。今、流行しているシェアハウスは、当時のように人が集まりみんなと一緒に暮らすような場となっているかもしれない。

■ 青少年の教育

- 映像中の「喘息合宿」のような取組みは今もあり、環境改善だけでなく子どもへの教育にもつながっている。このような機会でも過去を知る人から青少年へ当時の話をしてもらえれば、さらに実感をもって川崎の歴史が伝わる。
- 今の川崎しか知らない子ども達に昔の川崎の様子を伝えた上で彼らと何かを実行してみたい。映像をヒントにしたい。

■ 今後のターゲット・目標

- 街の写真は自分の家が写っていたり、知っている場所が写っているので、みんなが主役になれる。
- 環境に興味がない人でも、過去の川崎に見られた「絵画のような風景」という切り口なら、新鮮味や美術的な観点から関心を持ってくれそう。

本年度の活動成果 川崎国際環境技術展2015に出展

- 日時：2015年2月5-6日 10時-17時
- 会場：とどろきアリーナ
- ブース：一般出展ブースA（壁面小間）
- 出展部門：産学官連携関連
- 概要概要：
 - 本共同研究事業の概要とここまでの成果を展示することで、来場者に関心を持ってもらう（＝協力関係の構築）。
 - 研究の中で社会的資源として再発見した小串嘉男氏、倉形泰造氏が撮影した過去の写真を展示。ブース来場者からの感想やコメントをもらい、それをポスト・イットでリアルタイムに掲示した。



本年度の活動成果 川崎国際環境技術展2015に出展



本年度の活動成果

川崎市環境総合研究所の役割

- 庁内で職員対象のワークショップを実施
- 過去の市内風景を撮影した600－700枚程度の写真のデジタルデータが中原図書館に収蔵されていることを発見
 - 国際大学とともに、現在・過去の比較と対話に使えるような写真の選定を実施中
- 市保有の過去の「市政ニュース」映像を用意し国際大学に提供



本年度の活動成果まとめ

1. 社会的資源の再発見

- 川崎市の過去の風景写真（小串嘉男氏、倉形泰造氏撮影）
- 市政ニュース映像集と公害ドキュメントドラマ映像（および、それを編集した映像資料）
- データカタログ（川崎市のオープンデータ+各種社会的データ）
- 協力関係の構築

2. 社会的資源の活用

- 庁内ミニワークショップ
- ウォッチソン
- 「環境 × 川崎の過去・現在」を対話するワークショップ
- 川崎国際環境技術展2015出展

活動総括と今後に向けて

【本研究の活動への評価】

- 本年度の研究活動を通じ、今後長期に渡って研究を進めて行く上での基盤構築を行うことができた。

【今後の予定】

- 複数回に渡って実施したワークショップを通じて得た知見をもとに、次年度以降はワークショップの規模を拡大し、多くの市民を巻き込む形で展開していく予定である。
- また社会的資源が一定数集った時点で、市の内外に向けて発信していく活動も次年度に展開していく必要がある。